

2024年3月期第1四半期 決算説明テレフォン・カンファレンス 質疑応答要旨

日時: 2023年8月1日

発表者: 野村ホールディングス株式会社 執行役 CFO 北村巧

Q1: 昨年、人員数を減らし、それに付随する退職関連費用も今期はなくなっていた。第1四半期の人件費が増加した背景を、もう少し伺いたい。

A1: 円安進行の影響が相応に効いています。また基本給も海外を中心としたインフレや、日本における賃上げで増加しています。加えて営業部門の業績回復に連動した賞与引当金の積み増しなども、第1四半期で行っています。

Q2: アメリカン・センチュリー・インベストメンツ(以下、ACI)関連の評価損を約130億円と試算した。マーケット情報(上場運用会社のマルチプルや、株価の状況など)から類推できる数字とあまりにもかけ離れているが、ここまで評価損が大きく出た理由は何か。

A2: ACIの公正価値評価に使っている幾つかのパラメーターに対してヘッジを行っていますが、今回に限って申し上げると、一部ヘッジエラーが起きました。ACI自体の評価は然程悪くはありません。ACI関連損益が外から分かりにくいことは重々承知していますので、より適切なヘッジをできるよう、考えていきます。

Q3: この環境でもROEが2.9%に留まっている。ACI関連の評価損を除いても米州・欧州は赤字で、全社利益を押し下げる形になっている。既に決算発表を行った米系他社や日系他社と比べて何が違ったのか。

A3: 米国の急速な利上げで、昨年来、コアプロダクトであるエージェンシー・モーゲージ(金利ビジネスに含む)と証券化商品の不振が継続していることが一番大きな理由です。それ以外のコアビジネスは概ね堅調です。また、当社の米州クレジット・ビジネスの規模が非常に小さいことも、他社比で若干見劣りする要因になっています。

ただ、米国の利上げはそろそろピークアウトが見えており、エージェンシー・モーゲージを含む長期債ビジネスは回復してくると見えています。欧州・米国での引き締めサイクルが出口に差し掛かるなか、投資家のリスク選好も徐々に回復するでしょう。いまの環境が続くとはまったく思っておりませんので、マーケットが戻ったときにしっかり収益を生み出せるよう、準備しています。

Q4: インベスター・デーでグローバル・マーケットの人員を2年間で5%増やす計画が示されていた。今の収益状況に照らした場合、これは正しい方向性とお考えか。

A4: 人員の入れ替えを含めて一部プロデューサーの増強は行っていますが、採用自体は収益を見ながら慎重にコントロールしています。今年のパフォーマンスを見て、ビジネス側の人員整理も行っており、むやみに採用するものではないとご理解いただければと思います。

なお、グローバル・マーケットは、インベストメント・バンキングに比べて先行投資期間が比較的短い傾向にありますので、採用した人員は早い段階で収益に貢献してくれると期待しています。

Q5: 営業部門は、4月の人事異動で体制整備が完了したが、この第1四半期の収益や資産純増をどのように評価されているか。異動直後でもあり、4月から全力で走り出していたわけではないと思うが、7月までの状況を教えてほしい。

A5: 営業部門の業績や財務諸表に表れていない数字に、人員再配置による影響は出てきています。例えば、富裕層領域でパートナーが実際に接触できているお客様からのフロー収益は、前四半期比で50%強増えました。逆に接触していないお客様からの収益は減っていますので、ここから接触するお客様をさらに広げることで、収益に繋がってくると思っています。

今回、新たに富裕層領域に配属された約1,600人のパートナーは5月上旬まで、知識のインプットやOJTによるビジネスの習得を進め、お客様とのリレーションづくりを行ってきました。株価上昇も5月中旬からでしたが、体制整備の成果も期の後半に出ていました。ここからもう一段、アクセルを踏んでいきます。

Q6: マスアフルエント領域のパートナーを1,800人から200人に減らした。ある程度、収益インパクトを覚悟されたと思うが、想定と比べて実際はどうだったか。

A6: マーケット要因もあると思いますが、当初想定ほど、インパクトは大きくありませんでした。

Q7: フィクスト・インカムのマクロ・プロダクトが前年同期比で落ち込んだ要因と、フィクスト・インカム収益の月次トレンドを教えてください。

A7: 昨年好調だった為替/エマージングおよびエージェンシー・モーゲージが、この四半期は落ち込んだことが主要因です。お客様のアクティビティが減少したこと、ポジション・マネジメントについても前年同期比で落ち込みました。

ただ月次で見ますと、フィクスト・インカムの収益は4月が3割弱、5月が3割弱、6月が4割半ばで、期の後半にかけて良くなっています。

Q8: 4月に自己株式の取得を発表したが、まだ買っていない理由は何か。また上期配当を考える際に、今回のACIの評価損を除くような調整もあり得るか。

A8: なるべく長い期間を設定し、その間に取得する計画です。具体的な購入時期や詳細は回答を差し控えますが、私どものトラックレコードからお分かり頂ける通り、今回も買い切る予定です。

上期の配当につきましては、第2四半期が終わった段階で、ACIに限らずさまざまな要素を考慮して決定します。

Q9: 7月足元の海外ホールセールはスローな出だしと説明があったが、これは6月対比か、あるいは、第1四半期の平均値と比べているのか。

A9: 7月は4-5月より強く、第1四半期並みと考えています。

Q10: 日本の株式市場がバブル後最高値を付けるなか、御社のエクイティ収益は前四半期比2%増と、国内他社比で弱い要因は何か。

A10: 日本株への関心は非常に高く、日本のエクゼキューション・サービスやデリバティブ等のエクイティ・プロダクトは好調でした。米州のエクイティ・デリバティブも比較的堅調だったと思います。
一方で、米国では売買高が減少し、エクゼキューション・サービスは伸び悩みました。ただ、収益に対して計上される費用の割合が高いビジネスであるため、収益の落ち込み程、利益は落ち込んでいません。

Q11: 先週の日銀政策決定会合で示された新たな方針は、日本のフィクスト・インカムにとって追い風になると理解して良いか

A11: 追い風だと捉えています。この数年間続いた大規模金融緩和がようやく転換点を迎えたと捉えている投資家は多く、結果として、ある程度のボラティリティが生まれ、顧客のアクティビティが回復してくると見えます。我々はJGBビジネスで高いマーケット・シェアを持っていますので、リスク管理には注意しつつ、しっかりとビジネス機会を追求していきます。

Q12: 営業部門のストック収入の進捗が中期経営計画の目標に対して遅いように見えるが、いかがか。また、最近の株式市場の上昇を受けて、お客様の投資姿勢に変化はあるのか。

A12: スtock資産の積み上がりに関してはあまり心配していません。株価上昇を受けた利益確定売りでStock資産純増は若干スローでしたが、ここからお客様の全資産に対して提案をさせていただく中で、取引ベースの収益も出てくるでしょうし、(Stock収入の源泉である)投資信託や投資一任の買付・契約も出てくると見えています。我々としてはこのような全資産アプローチを継続しながら、一方でコストをしっかりとコントロールすることで、Stock収入費用カバー率を引き上げて行きます。
お客様の投資姿勢に関しまして、基本的な逆張りの傾向は変わりません。ただし少し長い目で見ると、相場が上昇するなか、若干株価が下落した局面で積極的な買い付けをされるお客様もいます。賃上げ、デフレ脱却等、日本経済を取り巻く環境が変化しようとしている中、お客様のセンチメントも温まっているという印象を受けています。

Q13: 米国の資本規制に関して、最近米金融当局が自己資本規制の強化案を公表したが、野村への直接/間節の影響をどのように見ているか。

A13: 今回の規制強化は、FRB、FDIC(米連邦預金保険公社)、OCC(通貨監督庁)の監督下にある、資産規模1,000億ドル(約14兆円)以上の銀行、銀行持株会社、および外国銀行等が対象となっており、当社は、それらの監督下のエンティティは有しておらず、今回の規制強化による直接的な影響はないと考えています。間接的な影響の有無については、クレジットリスクの計算方法の見直しも入っており、今後、注意してみていく必要があると考えています。

本資料は、米国会計基準による2024年3月期第1四半期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。